



杉本和道

「クレナイに染まったこの俺を」 マタイによる福音書7章12節

先日、ある会議に出席するため電車で名古屋まで出かけました。隣に座っていた大学生ぐらいの女性二人の会話が聞こえてきました。二人の会話と言っても話しているのは片方で、もう一方は話を「ウン、ウン、わかる、そうだね、ほんと〜？」と相槌を打ち続けながら聞き続けていました。新鵜沼の駅から、「彼氏が〇〇してくれない」「バイトの後輩が〇〇してくれない」「大学の友達が〇〇してくれない」と「くれない、クレナイ、クレナイ」と、ずっと愚痴をこぼし続けていました。その声が大きいのので耳に入ってきてしまい、私は本を読みながら心の中で、「愚痴ばかりで、これは、聞き役も大変だなあ」と思っていました。名古屋駅の一つ手前の栄生駅で、「クレナイ、クレナイ」とこぼし続けた方が「じゃあねー」と電車降りて行きました。残された聞き役だった子が呟きました。「愚痴、多っ！（怒）」と。その呟きを聞いて、声には出せませんでした。私は心の中で思いました、「お疲れ様でした」と。そう思った瞬間、彼女が言いました。「全然、私の話、聞いてクレナイ」と。ああ、「クレナイ、クレナイ」は伝染するのです。

かく言う私も、一年前は、私自身が「クレナイ」に染まっていました。先行きが不透明、どうなるか分からない難しい仕事を抱えていました。すると、仕事以外の場面、例えば家族で過ごしている時などでも、「自分は、こんなに頑張っているのに、家族はわかってくれない、いたわってくれない、大切にしてくれない」と言う思いが心に染み込んできて、やがて、それが言葉や態度にも滲み出してしまいました。そして、「クレナイ」に染まってしまっている自分に気がついては、更に自己嫌悪に陥るという負の連鎖に沈みこんでいました。上辺では元気そうに、仕事仕事と飛び回っていましたが、内心は、汚れが染み込み黄ばんだタオルのような気持ちでした。

しかし、ある日曜の夜、子どもたちと一緒に風呂に入っていたときの事です。子どもの体を先に洗い湯船に入れ、自分の体を洗っていると、小学校一年生だった長男が急に「お父さんに、いいものあげる」といってお湯船に顔をつけました。「1、2、3、」、3秒後ザバッと上げた彼の顔は精一杯の変顔をしていました。あまりに突然で、あまりにくだらないので、ついつい「何やってんの？」と真顔で言ってしまいました。すると彼は、「お父さんを笑わせてんの！今日、礼拝で《人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい》と教えてくれたでしょ。俺、笑いたいから、まず笑わせているの！」と変顔のまま言うのです。その真剣さに、笑ってしまいました。そして、私の心を染めていた「クレナイ、クレナイ」が、石鹸の泡と一緒に流れていったような気がしました。「ありがとう」の言葉と笑顔が自然と溢れました。「いいよ！」と息子が変顔のまま答えてくれました。

その夜、子どもが寝た後、礼拝堂の椅子に腰掛けて一人ぼんやり考えました。「私が、人にしても

らいたいことってなんだろう」「まず、してもらう前にできていること何だろう」「もう、してもらっていることって何だろう」と。顔を上げると十字架が見えました。

あれは、神の子イエスが「あなたのために死んでくださった」というしるしです。神が「わたしを愛するがゆえに愛する独り子を与えてくださった」というしるしです。十字架は、神がしてクレタことを伝えるのです。

あなたは、今、クレナイに染まっていませんか。神は、あなたを愛してくださいました。愛するからこそ、キリスト・イエスが十字架に死んでくださいました。神はクレナイではなく、クレタです。そのことをアナタが受け入れ、あなた自身がクレナイから、クレタへ変わるとき、あなたが今度は、あなたの大切な人をクレナイからクレタへ変えることができます。

《だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい》（12節）。

掲載元：[中部学院大学・中部学院大学短期大学部_チャペルアワー](#)